



「クルマを壊して、新しいクルマを作った」というのがこのプロジェクトのコンセプト。壊れたクルマのパーツを再利用して、新しいクルマを作る。これは、環境に優しいクルマを作るというだけでなく、クルマの文化を継承するという目的もある。プロジェクトのリーダーは、車のパーツを再利用して新しいクルマを作るというコンセプトを提唱するプロフェッショナルなアーティストである。

REUSED FROM
車

廃車が楽器に進化した!?
The Car Music Project.

長年乗り続けた愛車をスクラップにしてしまうのは忍びない。そんなときにどうしたらいいか? ——ビル・ミルプロットは、32万kmを走らせた愛車、1982年製ホンダアコードを、廃車にする代わりに楽器にしてみました。作曲家である彼は愛車をいつまでも手元に置いておくために、音楽仲間間でプロジェクトチームを結成、解体したパーツを使っての楽器作製を、友人の金属彫刻家に依頼した。ホイールをギターに、ガソリンタンクをコントラバスに仕立ててもらったビルは、実はエミー賞受賞の作曲家なのだ。



音源の音は、iTunesや、CD、DVD (56.50ドル)などで購入することができます。また、YouTubeにも動画もアップされている。まずはHP (<http://www.carmusicproject.com/>) にアクセスして、音源の実際では出せないメカニカルでキッチュなサウンドを試聴してみよう。

REUSED FROM
レジ袋

インドのスラム街を浄化してシステム手帳を作る!?

インドでは、レジ袋がモンスーン期に排水溝を詰まらせたり、ヒンズー教徒にとって神聖な存在である牛がそれを食べて死んだりするのを防ぐため、薄いレジ袋の使用が禁止されているとか。すでにゴミとして街中にあるという分に対しては、NPO「コンサーヴ」が一石二鳥の解決策を編み出した。デリーのピックアップにより集められたレジ袋を洗浄し、色ごとに分別、それをデザインに合わせて古紙の上に並べ、プレスして作られたのがこの(rag bag)。資源の再利用を促す一方で、スラムの住民たちの暮らしを支えている。



※この手帳を作るシート1枚には、ピックアップが集めた約100枚のレジ袋が使われている。レジ袋とは思えない機能も色合いと折り心地のよさが魅力的。



※中はカード収納スペースがひとつと実用だが、(rag bag) スタージュール帳をインド・インド・オープンハウス。



※ハンドルやタイヤなどディテールもすべて空き缶を加工して手作り。 (Village of the Arts) リサイクルカー「DS」(5cm) 200g (ABS 100%)。

REUSED FROM
空き缶

マダガスカルでは実車と“缶の”DSが走っている!!

マダガスカルからやって来たこのリサイクルオブジェ。現地の人が空き缶を集め、手作業で一つつくり上げたこの作品、自立を目指す途上国のフェアトレード製品として輸出され、先進国で価格が見いだされている。デザインは田舎にはなじみ深いクラシックの名車、フランスのシトロエンDS。かつてフランスから来たクルマが、貴族の足として使われていた。そしてエッセンスを引き継ぎ、今また先進国に帰っていく。1台のクルマが地球を旅して、人々の思いを「集める」オブジェに生まれ変わったというわけだ。

※シトロエンDSは1955年から約15年間生産された。日本でもフランスの多岐川工業がマダガスカルでは今でも生産されている。



この「DS」には7cmと15cmの2サイズがある。

早稲田大学MAJESTY & School「メディア制作実習」プロジェクト・チーム/オーガナイザー: 田中健児/取材・文: 小林由美 (31) 麻之幸 (32)、和田香織 (33)、小野真由子 (34)、藤村真大 (36)、大山陽菜 (36)

